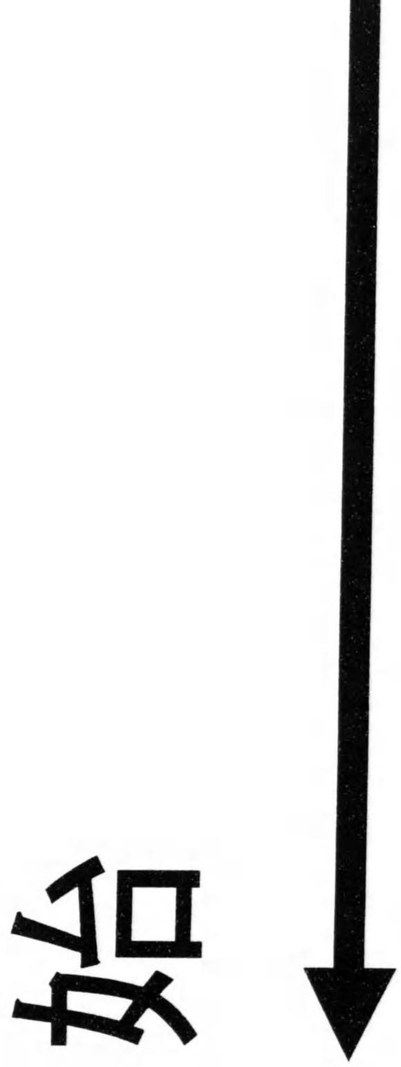
549
136



ボロ銀行の内幕

小西政治郎著

シービー印
豐年印
責任印
キリン印

ゴム靴

發賣元

鐵道省指定御用達

神戸屋ゴム工業所

忠田商行

電話二一七五番

營業所　滋賀縣彦根町土橋六

第一工場　神戸市神樂町五丁目貳

特約店募集

內科小兒科

野村醫院

醫學士 野村佐一郎

滋賀縣犬上郡久德村

ボロ銀行の內幕

大正
15. 10. 16
內交

549-136

序

學友小西政治郎君が「ボロ銀行の內幕」を出版する、と報らせてくれた時は、僕は蒙古の塵を浴びながら汗ダクの旅行中だつた。東山の自宅に歸つてみると、小西君から校正刷が屆いて「一度讀んで見ろ」との命令である。讀んでみなくとも、小西君は法律、經濟に關する專門の學問をした人である、銀行の內部にゐて、その內幕を知り抜いてゐる人である、新聞記者として暢達の筆を驅使する人である。理論と實際に通じ而てこれを述ぶるに快

明の筆を有するとすれば「ボロ銀行の内幕」一卷、繙かずして既にその價値は想察し得られる。

銀行は誠に經濟界の心臓である、心臓健全ならずして人の健全は望み得ないと同じく、銀行亂れて經濟界の康安は期し得ない。然るに銀行界の實狀はどうだ、泡沫銀行の倒壞破綻の報、朝夕吾人の耳朶を打つではないか。心臓が破裂して人間が生きて居れるか、銀行が破綻して倒産者なくして濟むか、否銀行の破綻は預金者の倒産、破産に止まらず屢々自殺者をさへ出すのである。殊に零細の預金を吸收する貯蓄銀行の破綻に到つてその情、最

も憎むべきものである、況んやその原因が故意又は重過失に出づるに及んでは重役一同、千の鞭も足らず、萬死も償ひ能はぬ。

併し破綻した後で憤慨した所で遲い、重役が皺腹の一つや二つ切つて見せた所で破裂した心臓が元へかへる譯のものでない。平素かから經濟界の養生、衛生が大切である、銀行の内部に巣喰ふバチルスを觀破する必要がある顔色や脈搏によつて心臓の健否を察し得るだけの經濟的醫學上の知識を平素養つて置く必要がある。

「ボロ銀行の内幕」は素人の好敎科書たるのみでなく又

玄人の良參考書である事を信ずる。

（大正一五・九・十三）

大阪朝日新聞記者

宇佐見兼丸

はしがき

一つ銀行が閉鎖すると、一度に數千數萬の預金者が苦しめられる。而も堂々たる大建築に納つてゐても、預金者の前には銀行は何時もびくゞものである。一体それは何故か。

お互が知つて置かなければならぬのは此處だ。僕は數年間ボロ銀行に勤めて、彼等がどんな事をやつて居るかを見て來た。此小著は即ち其記録である。

而も之に依て幾分でも社會に役立では、僕の歡びは之に過るものはないのである。

大正十五年九月

著者

貸借對照表

負債ノ部

資本金	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇
法定準備金	二五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇
別段積立金	二〇、四〇〇、〇〇〇・〇〇
配當準備積立金	六、〇〇〇、〇〇〇・〇〇
使用人退職慰勞金積立金	一、八四八、六九五・七三
諸預金	四三九、九九九、一八五・八四
內譯	
當座預金	四八、二八五、七五二・六三
特別當座預金	五五、三九七、五六三・七四
通知預金	三八、九六九、九四九・七八
定期預金	二九四、三三二、四一三・六七
雜預金	三、〇一三、五〇六・〇二
賣渡外國爲替	六八二、四三八・八六
外國取引店ヨリ借	四四、八七二、一三七・四三
他店ヨリ借	八三〇、六〇二・五四
仕拂承諾	二三、一一六、九三一・二三
未拂配當金	一〇、〇九一・八〇
未拂利息	四、八九五、八二二・四一
未經過利息	三、二三六、六七七・八六
未經過割引料	四三六、三六四・二九
假受金	二、一六七、七九〇・七〇
前期繰越金	三、五二五、九四九・〇八
當期純益金	六、二六三、一九〇・五一
合計	六八三、二八五、八七八・二九

現金	二、三〇〇、三〇〇・〇〇	二、三〇〇、三〇〇・〇〇	
所有株式	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
營業用土地建物	一、五〇〇、〇〇〇・〇〇	一、五〇〇、〇〇〇・〇〇	
貸付金	二、四〇〇、〇〇〇・〇〇	二、四〇〇、〇〇〇・〇〇	
株式	二、六〇〇、〇〇〇・〇〇	二、六〇〇、〇〇〇・〇〇	
社債	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
諸債權	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
假拂	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
仕拂	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
他國拂	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
外國拂	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
利子	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
買入荷為替手形	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
割引ノ為替手形	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
當座預金	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
手形貸付	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
手形譯書	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
金銀貸借	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
諸債權	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
諸拂込	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
未濟	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
資本金	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
資産ノ部	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	
合計	二六、三八五、九七八・九九	二六、三八五、九七八・九九	

本口銀行の内幕

小西政治郎著

經濟社會と銀行の地位
知らなければならぬ内情

同じ本口銀行と云つても、決して内容を同じくするものではない。從てそれだけ素人目には知りにくい、併し凡そ不正を働き乃至は、不秩序な經營をやつて行くもの

には、それ〴〵踏んで行く道がある。それさえ知つてしまへば仮令素人にしても、あの銀行はどんな狀態だらうか位ひの想像は付く筈である。

銀行と云ふ商賣が華々しい商賣であるだけ、世間では之を買ひ被る。そこに大きな失敗の因を作り又は作らせるのであつて、少く共銀行生活の内情に通じたら、銀行經營者の如何と云ふ事が銀行利用者、特に預金者に取つては、どれ程重要であるかと云ふ事が判るのであるが、それには又色々の策略があつて、資産家であると云ふ事のみでは經營者として適當と認め難いと共に、經營振り

如何の點に到つては一層第三者には判斷がつかない場合が多い。

銀行は營利事業であると共に、一面には經濟機關として社會に盡す所は少くない。今日の經濟社會では實に銀行は必要缺くべからざる機關である。而も其不健全が社會に流す害惡、惡影響に至つては、それが必要缺くべからざる機關であるだけ大きい譯で、其意味に於てもお互が此の銀行に理解を持ち、其内容に精通することは、獨り自ら不良銀行の犧牲になる事を免れ得るばかりでなく健全な經濟社會を建設して行く所以でもある。

そこで僕は、僕が數年間ボロ銀行の中で働いて見聞した範圍で不都合な、否不適當な銀行家が飽くなき横暴の果、終に自ら銀行を破綻に導いて、世の多く人々を泣かしめ、其上經濟界をかき廻して非常な迷惑をかけた裏面を紹介して、一般に警告したいと思ふ。

ボロ儲けの銀行業
預けた金は銀行の物

一体銀行と云ふ商賣は、信用がなくては出來ない商賣だが、飛んでもないボロイ商賣である。

三年に一度や五年に一度の大藏省の檢査位ひは、それこそ朝飯前のこと、やるにすれば仕事は何んぼでも出來る譯である。

そこで事業家や名望家が、自分の地位や信用を利用して銀行を起し、他人樣の大切な虎の子を集める。一度集めたら其時からお金は銀行のものになつてしまふ。だから之をどう處分したつてそれは銀行の勝手だ。

事業家が銀行を欲しがる譯は、かうして集めた金を、勝手氣儘に使はして貰ふ所にある事が之で判らう。

銀行は預金者から日歩一錢位いでお金を預つて、之を

二錢、三錢、甚だしいのになると日歩三錢五厘と云ふ高利で、平氣で貸付けるのだから、きつと儲からねばならぬ商賣なのである。しかも集めさゑすれば借手は何程でもある。所で此集めた金をどう處分するかで銀行の良し惡し、預金者の虎の子の運命が定ることになる。

さればこそ銀行屋さん達は、預金の勸誘には經費をおしまず奮發して、之が爭奪に血眼の混戰を演じ、果ては預金利子協定破りてな餘興を迄演ずるのだが、此處の所は未だ曾つて金を預けた經驗のない僕よりも、諸君の方が却てよく御存知だらうから失敬して、集めた金の使ひ

方の方から順次說明して行くことゝする。

金の使ひたい事業家が銀行の裏にはダニの樣に

問題の貯金魔高柳諄之助の一萬圓貯金法には、此銀行のボロイことを書き立てゝ居る。

そこで彼高柳は、一方には怪し氣な土地會社や鐵道會社、さては有價証券會社迄經營し、他方では例の高柳金融と云ふ會社をコネ上げて、其手で金を集めて一儲け目論だのである。

近頃正体の知れない銀行や、銀行類似の金融業者か續々出來た。而もそれか揃ひも揃つて不正業者だつたのを見ても、色々の抜け穴があることが判る。

さて横道は之位ひにして、此集めて來た金をどう使ふか、一旦手にはいつたら其時から預金は銀行のもので、預金者は預金債權を取得するに過ぎない。だから後になつて銀行へどなり込んで、

「俺の金をどうした？」

などと騒いで見てももう追つゝかない。預金者は無擔保で、おまけに安い利息で銀行屋さんに、大切なお金を

貸してあげた勘定である。

試みに古い所はやめて、最近に現れた倒産銀行を見るに、大正九年には増田ビル、七十四、それから後に高知商業、日本商工、日本積善、報德、岸本、大分、京和、國民、大阪、共立、京都通商、公業、最も新しい所では北海道の糸屋銀行等ちよつと思ひ出すだけでも數へ切れない程ある。從て之に虎の子を使ひ果された預金者の數は實に數十萬に上る譯である。

そこで之等の銀行の經營者の顔振れを見ると何れも大小の事業家が關係して居る。――事實家と銀行屋――

高知商業の石井、日本積善の高倉、岸本銀行の岸本兄弟七十四の茂木などは人もよく知る所である。

三井、三菱、十五なんかも此筆法で云ふと事業家の關係する銀行であるが、之が内容は僕の預り知らぬ所、無限大に一を加へても矢張り無限大であると云ふから、日本の財界の巨頭は無限大の財産はなくても、ボロ銀行並に取扱ふことは國家の對面にもかゝはる。ましてや健實な事業家の經營する所、理の許す範圍に於てだけ情狀を汲んで置いて貰ふことにしやう。但し有田音松でないから何事も請合は一切御免蒙る事勿論である。

積善銀行大穴のこと
ゴマ化しは預金にも

そこで預金總額二千萬圓と云ふ莫大な金を、大方使ひ果してしまつた日本積善銀行の裏をのぞいて見ると、そこには人も知る當時堂島取引所理事長と云ふ、相場所の大親分がくつゝいてゐて、投機資金の要る儘に其大部分を引き出して使つてしまつたのである。之ではとても日本積善どころではない、日本一の積惡銀行である。

所で此日本積善銀行は、もとは日本貯藏銀行と云つて

貯蓄銀行だつたのだが、規則が面倒になつたので、大正十一年の一月一日から普通銀行に變更して營業を繼續したもので、心あるものは此時に氣がつかなければならなかつた筈である。

それはさて置き、何故あの大穴があく迄外部へ知れなかつたか、そこには又其譯がある。

之から銀行のバランスの內容の一つ一つに就いて少しく說明して見やう。

と云つても何も七面倒な簿記や會計の講釋をやつたのでは、僕よりも先づ諸君の顏に迷惑の色が浮ぶ。だから

茲ではそんな野暮な理窟は一切やらぬ。だが話の順序として、貸借對照表に貸方と借方と云ふのがあることだけは云つて置かなければならぬ。之を又負債の部、資產の部とも云ふ。負債の部には資本金、預金等の勘定科目があり、資產の部には營業用土地家屋、所有有價証券、割引手形等の勘定科目があるが、之は最初に添付した貸借對照表で見て貰ふことゝして茲には省く。

而して負債の部に計上される勘定科目には大体ゴマ化しはないが、唯一つ注意しなければならぬのは預金勘定である。

此預金には時々ウソがある。ウソも方便と云ふ諺があるが、つく方には方便でもつかれる方にして見れば餘り感心したものでない。それなら預金をどうゴマ化すかと云ふに、預金をバランスに多く計上してゴマ化すのである。尤もゴマ化すと云つても、全然ないものを空に帳簿に書くのではないのであつて、そこに巧妙な細工が施される。

諸君！ちよつと素人考へでは、預金を澤山帳簿に書き上げたら、却つて支拂利息が多くなるから、損失が帳簿面に表れて來るやうに思ふだらう。所がそんな事位ね全

然問題でない。

どうして預金を多くしたいかと云ふに、一体銀行の信用と云ふものは、預金、殊に定期預金の多少によつて凡そ見當が付くもので、預金の少いことは銀行の信用の薄いことを意味することになる。從て之を以て恥であると云ふのが理由なのだ。

利子が躍つてハネる
怪しい預金は斯して出來る

それなら定斯預金が少くて、當座預金や特別當座預金

の多いことがどうしてよくないかと云ふに、之等はどちらも動き易い、つまりまとまつた預金が少いと云ふことになる。

云ひ換へれば金を安心して銀行に預けて置くやうな人はそんな銀行へ持つて行つてゐない証據である。自然銀行の懐中具合が想像し得るに於て、銀行屋さんたるもの又一策を案じ、勝手もとまで見透されない方法をたてる事は極めて必要でもある。

そこで發明されたのが割引振替の方法と云ふ手で、それに依て思ふだけの預金を立ち所に製造するのである。

此方法はどこでもやることで、手形を割引して之を預金に振替へ、必要に應じて小切手を振出させる。併し其手形の何たるやが問題である。

銀行屋が云ふ手形に割手（又は割引手形）と貸手（又は貸付手形）の二通りあつて、割手の方は流通し得るものであるが、貸手の方は其實借用証書の變体で、前者を商業手形と云ふに對し、後者を融通手形とも云ふことがある。

此貸手を定期預金に振替へて、之を見返り（擔保のこと）に當座貸越をやる。之が所謂兩プラスと云ふやつで

ある。

銀行の懷中勘定では、參錢前後の手形貸付が、預金では壹錢位ひねだから、仮りに參錢とすれば明に貳錢儲かる譯だ。其上之を見返りに當座貸越で又貳參錢と來るから利子は折れて曲つて躍つてハネ上る。

けれ共諸君、此躍つてハネさせる危險さを考へて見ることを忘れてはいけない。空つぽの手形が預金に化けてそれから何倍と云ふ利鞘が生する。こんなことをやつて不良銀行は素人をゴマ化して居るのだ。つまり此手で預金と利益（利子と割引料）を一度に擧げて、預金者をす

つきり信用させてしまふのである。

百萬圓が千萬圓だつて空つぽの手形なら誰でも書く、それを割引して帳簿面で定期預金に仕立上げる位ひの事なら大した世話のかゝる話でない。

だが幾等預金者が物好きでも、さうむざ〳〵と高い割引料を只はあげて置かないのだから油斷はならぬ。そこにも思ひもかけぬ秘密と云ふよりも大きなコンタンがあるのだ。又あつて當り前、滅法高い割引料と借越利子を差上げて居るだけでは、預金者は一生銀行の奉公しても追付かないのだから……。

當てにならぬ準備金
帳簿をゴマ化す銀行屋

怪しい預金の製造法は此他にもある。

或る銀行では、毎年六月と十二月の決算に預金と現金の少いのを隱す爲に、實に七月一日と一月四日中の入金全部を前期へ繰上げて（支拂は繰上げない）帳簿をゴマ化してゐたものだ。

がこんなのは玄人が見れば大体判る、何故判るかと云ふに、月始めに入金に來るのは大部分が當座預金又は特

別當座預金だ。從て預金總額の多い割合に定期預金が少いからである。

こんなバランスを見て銀行を信用したらそれこそ大變大切な虎の子の消し飛んでしまふことは請合ひだ。

それからお次ぎは資本金だが、まあ大体銀行の資本金にはゴマ化しはないとして、之と預金とを比較して見る必要がある。現に或銀行の如きは資本金三千萬圓（尤も拂込濟ではないが）と云ふのに、預金はたつた一千五六百萬圓と云ふのがある。本來ならんこんなのは利益の上る道理はないのだ。

之程でなくても、拂込資本金と預金總額との差の少いのは大体ボロ銀行と見て間違ひはあるまい。

次ぎに法定積立金だが、之の多い程よいことは勿論である。併し之とても現金や有價証券にして遊ばしてあるのではないから、餘り當てになるまい。

又時に借入金を掲げて居る銀行があるが、之などは特種の理由に基くものでなければ、普通にはあり得ない道理だ。だからこんなのに會つたら一應調べて見る必要がある。何故と云ふに本來預金其ものゝ性質が、既に借入金と同じだからで、それを殊更借入金名義として置く所

は何か曰くがある証據と云へるからだ。

此外には負債の部で素人に注意すべき所はないやうに思ふから、之から愈々資産の部即ち銀行財産を御紹介に及ぶことゝしやう。

百萬圓の大銀行も
金庫の中には空つぽ

之は或銀行が閉鎖した時の話だが、驚く勿れ其際金庫の中に殘つてゐた現金は、何も彼もかき集めても壹萬圓に足らなかつた。之が資本金百萬圓の銀行なのだから愈

々呆れる。

それからと云ふものは、毎日々々預金者委員會なるものを開いて、片つ端から帳簿を調べ上げたものだが、結局一つの不正も誤謬も發見し得なかつた。

併し何の不正も故障もないのに閉鎖しなければならぬ筈がない。間もなく大藏省銀行局から檢査官がやつて來て、ザツと洗つて見たゞけて二度びつくり、此銀行の二百萬圓に足らぬ預金に對し、不良貸と名付けて回收不能の爲め缺損にした金額が百六十餘萬圓、殘つた貸付も大部分は事實上回收不能だつたのだ。

それぱかりか銀行所有の不動產は全部擔保に、電話は一個も殘らず賣られて、十餘箇所の營業所を合しても結局まとまつた金は出來なかつた。

其時最も悲慘だつたのは百數十名の解雇された行員で之等の退職手當が支店長級の最高で百五拾圓、平銀行員に到つては拾圓貳拾圓はまだましな方で甚だしいのは參圓、而もそれすら現金では拂へないから無期限の辭令一枚で間に會はせたなどとてもお話になるやうな狀態ではなかつた。

大變餘談が長くなつたが、一体それならどうしてこん

なことになつたか、之がお互に知つて置かねばならぬ肝腎の所なのだ。

仮令使ふと云つて、貳百萬圓の預金、何拾萬圓かの拂込資本金が、さう〳〵一度や二度に使へるものでない。まして預金者委員連が長い間かゝつて調べ上げても一ケ所の不正すら發見する事が出來なかつた位だから、そこに巧妙な手段かさもなくば何か變つた抜道がなくてはならない道理だ。いや銀行の中は容易の事では探ぐれさうもない。

それに會社のお旦那樣は
遊んでゐても金は儲かる

何れのバランスを見ても、資産の部で一番に目に着くのが拂込未濟資本金（是ある場合のこと）と所有物勘定で、之を更に不動産、什器、有價証券等に細別して居るのが普通である。

其次ぎは貸付で、之に手形貸付と証書貸付、擔保附及び無擔保の別が出來る。又爲替勘定の貸借もあるが、之に就ては多く論議する必要はない。

更に買入外國手形と割引手形と云ふ別があつて、之は問題として最も重要な勘定科目である。臺灣銀行や朝鮮銀行がボロを出したのは、此ボロ手形の割引や不良貸が主なる原因であることは云ふ迄もない。近江銀行の資本金半減も、全く此ボロ手形の割引が主であつた。從つて之等の點について述べれば、それでどうにか問題の核心には觸れやうと思ふ。

右に並べた勘定科目は、何れもゴマ化すのに都合のよいものばかりだから、こいつをうまくゴマ化せば、一生遊んで食ふ位いは茶飯事、「何ぼ稼いでも貧乏はぬけぬ、

それに會社のお旦那樣は、何時も遊んでお金持ち、ほんに浮世はまゝならぬ。」と云ふ俗謠かあるが、そんな事を考へるものゝ出來て來るのもまんざら無理ではないかも知れぬ。

なんて云ふと、「三度の食事もロクダマ食ひもせず金を預けて居るのに、銀行屋はそんな不都合な奴か」などと興奮して銀行へ駈け込んだりする人があるかも知れないが、ちよつと待つてくれ、皆が皆迄さうじやない、唯僕が茲に書いて行かうと云ふのは、さう云ふ惡い奴のことばかりで、良い方のは僕の紹介する領分に屬しない迄の

ことだから……。

そこで之又なるべく理窟は抜きにして、某銀行の實例を採つて順次書い行くことゝする。

預金よりも貸出の多い銀行

石井定七にも一億の財産が

或銀行のバランスを見ると、預金よりも貸出しの方が多かつた。之では預つた金ばかりではない資本金迄も貸してしまつた勘定である。

勿論銀行は、金を預つて利子をつけて返すばかりでは

商賣にならぬ。安く預つた金を高く貸して、其間で利鞘を儲けて行くのが銀行屋それなら貸し出すことに不思議のある筈はないが、さりとてもと〳〵皆大切な他人樣の虎の子を預つて居る迄の話、それを殘らず貸し出してしまつたのでは、お次に「今返して下さい」と云つて來られた時に返せないのは當り前の事だ。

これ位ひの事は賢明な銀行屋さんたるものに判らぬ道理はないが、人一倍深い慾の皮が借手と協力して、こんな足掻きの取れぬドフへ落ち込んでしまふやうな事になるのである。

之は例の「怪しい預金」と關係があつて問題の兩プラスと云ふ手で借手が見事に銀行屋を陷れる。こゝもと銀行屋よりも借手の方が役者が一枚上だから上には又上があるものだ。

それなら一体どうしてこんなことになるか？之は塲合を別けて見て行かなければ判からない。

横堀將軍石井定七が七千萬圓と云ふ大きな借金を背負つたので、一躍借金王と云ふ尊稱を奉られたことに就て皆不思議がるが、それとて實は見方の問題で、彼石井が全盛時代には貳億の財産があつて、百圓札や拾圓札、貳

拾圓札と手の切れるやうな札束が、柳行李に詰めて押入れへぶち込んであつたとさゝ噂された位ひだから、よし其半分の壹億圓の財産を事實彼が擁してゐたものと仮定すれば、それに對する七千萬圓の借金ならあつた所で別に不思議はない。

と云ふのはスカンピンの文なしと云ふ所でも、少し賢い者は千や萬の金を他人から取り出して自由にするのだから、現實財産が壹億圓もあつたら七千萬圓借り出すのは、ちよつと上手に廻れば大した苦勞をしなければならぬものとも思へぬ。

だが之には「當然あり得る事だ」で濟まして置けない譯が此外にある。先つ銀行屋自身が金を取出す事から述べやう。

預金者や株主にも過失が
重役の行金費消問題

彼の高倉爲三が積善銀行の金を取り出したのは、支配人と共謀して大金庫に手をつけたもので、其うめ合せには空つぽの手形を差入れて置いたものだ。そこで決算期になると、監査役に「此通り貸付けてある」とバラン

スをお目にかけたから、どこをつゝけばアラが判るのかすら御存知ない善良な監査役さんは、云はるゝ儘に盲判をポンと押して突き返す、それで帳簿上は年八歩何がしかの配當か出來る。

こんな事で商賣になるのなら、何にも高倉爲三を頼んで來て重役になつて貰はなくても、誰でも出來やうじやないか。

兎に角銀行の重役自身が金を取出して使ふとなれば全然問題ではない。岩下清周が無暗に事業に役資して、足を出したのも、藤本清兵衛が日糖の監査役をしてゐて自

分の銀行の金を間に合はせて失敗したのも、其心持ちは變らない。

少し話は小さいが、今では時めく實業同志會所屬の代議士鷲野米太郎君が、もと京都市の高級助役を勤めてゐた頃に、愛宕銀行の頭取今井德之助其他京都市内の有名無名の實業家辯護士等の一味と謀つて、自分が職務上知り得た都市計劃の豫定線を漏らし、得たり賢こしとばかり今井等に土地買占をやらした。其買占資金の出所は云はずもがな、彼今井が頭取たる日本商工銀行、當時の愛宕銀行であつた。之が爲めに愛宕銀行は一時取付けに遭

ひ、後增資して日本商工銀行と改名し、華々しく再起を企てたが結局其傷は致命的で、大正十一年の大恐慌には第一番に閉鎖のよぎなきに至つたのである。

何にしても銀行家が一方に事業を經營して居れば、其事業が發展すればするで、又失敗すればすんだけ、自分の手で自由につかみ出せる金を、殊に他人樣に頭を下げないで、おまけに安い利息で簡單に取出せる金を使はふとするのは人情で、別に高倉爲三でなくても誰でもやる事である。其誰でもやりたいことだから銀行家が事業を經營するのは惡いと云ふ結論になる。

高倉爲三にした所が、何も最初から銀行の金を横領しやうなどゝ考へてはゐなかつたに決つて居るが、結局返せなかつたから、背任業務横領でな餘り有難くもない罪名を頂戴しなければならなかつたのだ。

其証據には、彼は積善銀行に大穴をあけてからも頻りと株に手を出し、一方では大阪農工銀行の乘取りを企てゝ大問題を起し、やつと平重役の椅子一つを貰つて事濟みとなつたのだが、其裏面は正に自ら窮地へ導いた積善銀行の救濟に慘膽たる苦心を回らして居たではないか、けれ共時は既に遲かつた。

こんなのも見方に依つては事業家の機關銀行と知りつゝも金を預けた人、相場師の親玉を重役に祭り上げた株主にも確かに過失があると云へやう。

銀行屋よりも賢い借手
貸付係の裏面は何か？

さて銀行屋が金を取り出すことに就ては、別に大した説明を加へなければならぬ程の事でもないから之位ひにして次は貸付係の内幕に移る。

銀行には各係があつて、其中でも割引貸付と云ふ係が

最も重大な事務の一つである。そこで銀行から金を借りやうと思ふ人、手形の割引がして欲しい人は先づこゝへ來て、恭々しく御尊顔を拜し、其鼻息を窺つてから徐ろに用向きを伺ひ立てる。

「折角ですか此手形では……」てなことになるとそれこそ大變、だから借金上手は決してそんなへマな眞似はやらない。

菓子箱や自動車で美人位ひは朝飯前の事、中には歩合を差し上げるのもある。

借手の方から云へば、どんな方法でもよいから金を手

に入れゝば目的は達する、又貸付係にしては固より金は銀行のもの、借手があらうがなからうが一向構つたものでない。

所が此貸付係たるや何れも傳統的に、頗る結構な役得がくつゝいて居る。市會議員や町會議員ですら役得があると云ふから、もと〳〵銀行の懐中から出るのでない役得なら少々位ひ頂戴したつて……貸付係と借手の間にはちやんと一つの因果關係が成立してしまふ。

例の大阪銀行や積善銀行を見たら此點は立派に裏書が出來て居る。僕の知つて居る某銀行の元支店長だつた某

君の如きは、月給五六拾圓の安物吏員から拾はれて、忽ち支店長の椅子を占めた程の男だけあつて、敏腕の動く所は實に凄いもので、支店長の地位を利用してかしなかつたか兎に角一躍自宅に電話迄取付け、さては自宅新築と云つた豪勢振りで、而も銀行が經營困難に陷り遂には閉鎖のやむなきに立ち到つた頃には後白浪と逃げてゐたものである。

空つぽの手形と菓子箱協議
慾の皮の厚い銀行屋さん

石井定七事件の如きは、一流銀行からさへ此手の犯人を數名出して居るが、何もそれは不思議がる程の事でもなんでもない。どこの銀行でも大底やつて居らぬ所はあるまい、小さな銀行では支店長閣下御自身で如才なく立ち廻つてござるのもある。之の出來ない支店長は先づ以てカイショなし……と云ふやうな譯だらう。

そこでちよつと逆戻りして、問題の兩プラスに就て述べて見やう。

○○○○銀行○○支店の貸出狀態を見た所こんなのがある。

甲が十萬圓の手形の割引を依頼に行つたが、此手形は融通手形だから固より普通には割引の利く代物でない。そこで支店長と例の菓子箱協議をやり、之を定期預金に振替へる條件で割引した。其日の本店への報告書を見ると、一躍預金が拾萬圓も上つて居る。「中々成績がよいな」などゝ本店では喜んで居た。一方支店では、前にも云つたやうに、利子の預りは日歩壹錢位ひで、割引や貸付は貳錢五厘乃至は參錢五厘と云ふ見當だから、其の差額の壹錢五厘乃至貳錢五厘は只儲けである。損益勘定を見ると立派に割引料と云ふ名で其の數字がグン〳〵上つて來

る。其上菓子箱や歩合（手數料とも云ふ）は銀行の腹を痛めないで支店長や貸付係の手へ轉げ込むと云ふのだから、こんなボロイ商賣は世間廣しと雖もさう澤山はあるまい。

それぱかりでない、利益の多い支店には行員のボーナスの率や俸給其他の待遇が違ふ。何も彼もよい事ずくめである。所が幾等いゝ氣の借手だつてさうまるつきり相手にばかり儲けさせて置くものでない。

「此定期預金を見返り（擔保）に最高五萬圓迄當座借越を」と言ふ條件が附いて居る。それが二三日も經てばき

つと限度迄取り出してしまふ。取り出されたが最後其金に滅多に無事では返つて來ないのだ。

（之れを判り易く言へば、拾萬圓の空手形が結局五萬圓の現金に變つた譯で、其の間借手は歩合と割引料を損してゐ差引四萬何千圓かは現金を只貰つたと同じ結果である。）

世に出られないボロ手形
積んで出なす金庫の中に

兩プラスのことに就ては、未だ書けば幾等でも書くことはあるが、兎に角理由は判つたことゝ思ふから之位でおくが、貸付係と借手の間には必ずや情實が出來る。全くの所最初はそんなつもりでなくても、借手の方からさう仕向けて來るのだから自然引きずり込まれて、知らず識らずの間に所謂不良貸と言ふのがだん〳〵多くなつて來る。

彼の近江銀行が一度に資本金を半減してしまつた如きも、實は此不良貸の整理が主因であつたやうだ。朝鮮銀行や臺灣銀行では、政黨や政治家のお聲がかゝれば無擔保でも無制限に割引をやつたと言ふ話だが、民間の銀行

ではそんな譯には行くまいが、それでも之が縮圖と言つた所は幾等でも拜見し得られる。又右のやうな無擔保と言ふ亂暴な貸付振りは別として、仮令擔保を取つて貸付けるにしても、其擔保が無價値な有價証券や土地のやうなものだつたら何にもなるまい。此處は確かに銀行の運命を支配する大問題である。

しかも貸付係や支店長級では、高倉爲三のやうな大仕事は出來ない迄も、連續的に行つたら塵も積れば山だ、鼻紙にもならぬボロ手形が金庫の中に山をなす位ひは、大した世話はかゝらない。

さればこそ〇〇〇〇銀行の如きは、たつた百萬圓の資本金で、別に之と云ふ大穴をあけた者もないのに百六十數萬圓と云ふ莫大な缺損を計上し、其後に殘された僅かな貸出すら殆ど紙屑同樣であつたではないか。

以上の如くだから銀行のバランスを見る時には、一々貸付狀態を詳細に見て行かなければ、帳簿檢査など百萬遍繰返した所で、記帳上の誤りで銀行がひつくり返るやうな間違ひは、素人でない銀行員の手で出來る氣遣ひは恐らくあるまいと思ふ、にも拘らず〇〇〇〇銀行の預金者委員があてどもなく帳簿をはねくり廻し、どゝのつま

り「どこにも怪しい所はないがなあ」てな嘆聲を放つて却てなん化したやうな珍な餘興に終る事になるのだ。

怪しい買入外國爲替

之も一寸御注意申上候

右に述べた所は要する一般の貸付、割引に共通の例であるが、今一つ買入外國爲替手形と云ふのがある、所が外國手形だからと云つて決して安心が出來ない、支那も外國ならアメリカも印度も英國も……そして其外國商人でもボロもあれば詐欺師もある。

之も〇〇〇〇銀行にあつた事實を其儘お目にかけるのであるが、〇〇〇〇銀行の某期の決算報告に、買入外國爲替と云ふのがあつた、外國爲替が不渡りになると云ふことは滅多にないのだから、此銀行にそんな科目があつた所でよくこそ思ふが疑つて見る者はあるまい、然るに事實はさうでない。

此手形と云ふのは、支那に本店を有する商店の爲替手形で、內地の某會社が受取つたものを、とても流通しさうもないので其會社の社長と銀行の支配人とが特殊の契約をやつて買取つたものなのである。

然るに此手形が期日に至つて不渡りになつてしまつたのである、銀行では大いに驚いて早速依頼者に伺つて交渉を始めたが、最初から無資力で其上の打擊を被つたボロ會社は、時既に破産に瀕してゐたのだからとうとう投げ出してしまつた、斯くて銀行はまる〳〵損失を負擔しなければならなかつたのである。

又外國行きの荷爲替手形などには、往々かうして銀行をペテンにかけて居るものがある、斯る場合に銀行員が菓子箱の御利益にありついたりしたらそれそこ大變、結果は右のやうな破目に陷るのが落ちである。

次ぎにこんな缺損が出來た時に其缺損を銀行はどう始末をつけて居るか、茲にも大いに注意する必要がある。勿論此場合に割引依頼者に資力があれば其者から辨償させるが、支配人や貸付係を買收して借出した連中の懐中はお定りの空つぽ、取るには取れず、と云つて缺損にしてしまつたのでは利益が減つて配當に影響し、果ては株價の低落と云ふ最も恐ろしい結果を招來しないとも限らない。「まゝよ」で帳簿に何時迄も殘つて資産となり、取れもせぬ割引科を産んだら厄介千萬、外國爲替だからとて夢油斷はなりませぬのじや。

正金銀行ですら時にはペテンにかゝる、況んや民間のボロ銀行に於ておやだ、古新聞やボロが立派な包裝で滿州や大連乃至は朝鮮へ、荷爲替付で輸出されて居る事實から見ても、之位ひの事はあり得ると云ふ想像がつくだらう、ウドン粉をモルヒネに化けさせて手形詐欺に成功したものもあると云ふから充分注意する必要がある。

役人の古手仕入のこと
並大底でない重役の智恵

以上は貸付に於ける不正の場合であるが、細心の注意を

拂つてゐても回收不能は必ず出來る、從て銀行にして眞に業務に忠實であるならば、之が豫防策を講ずることは申す迄もなく、毎決算期毎に此不良貸を整理すべきであるが、斯くては營業成績に影響し、株價を下落せしむる恐れがある、株が下れば預金が減る、そこで又ぞろ之が對策を考へ出さなければならぬ。

中々ボロ銀行を經營しやうと思へば並大底の事ではない、性自信のないのはサッサと銀行を出て行くがよからう、さて此缺損をどうゴマ化すか、ゆる〳〵御見物を願ひたいものだ。

營業成績の遲々として上らなかつた某銀行では重役がお多分に漏れず大金を銀行からつかみ出して、それで土地買ひ占めの思惑をやつて、成金の夢を見てゐた、所がそれでは預金者が承知せず、世間から騷がれて取付騷ぎの痛い目に會ひ、折角見てゐた成金の夢も一夜の中に醒され、四苦八苦の末やつと整理して一時を糊塗したものだつた。

其後を增資でどうにか繕つてゐたが、今度は不良支店長や支配人に喰ひ荒されて、愈々どうにもならなくなつた、けれ共そんな事が外部へ漏れては事一大事、株價の

下落は必定だから幾等苦しいからと云つても、さう何時でもボロをさらけ出す譯には行かない。

そこで一つの名案を發見した、と云ふのは銀行の內情に詳らかな恩顧普代の行員を追ひ出して、其後へ近頃いかさま會社がやるやうに、役人の古手をどつさり仕入れて陣容を改める事だつた。

昨今某會社などが頻りに官吏や軍人の古手を募集して居るが、全くの所古い手だ、こんな手なら抜目のない銀行屋さんはもう一昔も二昔も前からちやんと試みで居る所だ。

金庫二つが貳萬圓に
ペン先で利益製造の方法

愈々頭數を揃へて店頭に陳列して見る、鼻ひげや圖体は皆一人前過ぎる位ひ、之なら定めし甘まく行くだらうと重役は腹の中でうなづいた。

一方役人の古手にして見れば、何がさて金に緣のない連中の事だ、金庫の前に陣取つて札束を積んだり下したり、算盤をたゝいて見るのは嬉しい。

此譯の判らぬ嬉しかりを働かして何とか一息吹き返さ

うと云ふのが銀行屋の腹の底、さて〳〵世の中は油斷がなり申さぬ。所で用意はよし、之で成功したら皆樣御手拍子喝裁を願ひます、と云ふ所だが中々さう安くは問屋が卸さぬからまゝならぬ。

ぞろ〳〵集つた顏ぶれを拜見すると市役所、警察、府廳、學校、稅務署、此邊が役所時代の顏なじみを訪問と來る。

けれ共もと〳〵役人の古手に一文の信用がある譯ではなし、高い月給の拂ひ損でどゞのつまりは銀行の損と云ふ事になつた、當て事と越中褌は何とやら、此お手際で

は下手な手品師にも及ばなかつた譯だ。

そこでどうしたか。

首も廻らぬ銀行の懐中はそれこそ火の車だ、割引した手形迄支店から全部本店へ引上げて、之を悉く再割引して一時をしのいだのだ、所が經費ばかり嵩んで之ではとても利益が上らない、斯くてはお定りの蛸配すら分別がつかぬ、そこで次ぎに思ひ立つたのが所有物勘定から數萬圓の利益を搾り出す事だつた。

そこへ行くと大阪人は流石に何にかけても太つ腹だ、某銀行の大阪支店の如きは、人も知る岩下清周の北濱銀

行時代に使つてゐた男が幹部となり、其凄い腕前をお目にかけたものだ。と云ふのは或決算期に出來た莫大な缺損金全部を所有物勘定中の什器へ振替へて、アベコベに貳萬數千圓の利益をペン先で製造してしまつたことだつた。

此銀行の什器と云ふのは一號金庫が二つと、十名程事務を取る器具設備それに來客用のテーブル椅子數個で、二階は××電鐵會社に間貸してあるのだから此外には何一つない、それで價額が貳萬數千圓だ、決して嘘でなかつた事は僕が保証する。

利益の大量生産と
變通自在な財源

さて大阪式の太つ腹は之位ひにして置くが、頭取の内命で、缺損特に營業費を什器勘定へ振替へてゐた銀行がある。

諸君が銀行と云へば堅い所、間違ひのないものと信じて居る銀行にして既にこんなのがある、銀行の内幕にはまだ〳〵暗い所かあるが、大底は銀行員自身も御存じない、其筈だこんな事が平銀行員に知れてゐたらそれこそ

何時どうして外部へ漏れないとも限らないのだから……

次ぎに株主にも預金者にも知れにくい頗る都合のよいペン先の小細工の利く財産がある、それは云ふ迄もない不動産だ、近頃のやうにとん〳〵拍子に不動産が値上りする時期には一層判らない、故にこいつで利益を製造するのは誠に世話がかゝらなくて、而も大量生産が出來る

拾萬圓で出來た建物を拾參萬圓に評價したり、五拾萬圓の土地を五拾五萬圓と書いて置いた所で帳簿を拜見せぬ株主や預金者に内容が判らう筈がない、又監査役にした所で財産と帳簿を一つ一つ引合せて見れば格別、帳簿

面で評價の當否が判斷出來る程鋭敏熱心なのは滅多に株主や取締役の方で椅子にすへて置かないから感心である、此手で株主總會を一氣にゴマ化し通す位ひは屁のカッパ、況んや内部を知る由もない善良なる預金者に於ておやだ。

斯くして製造した利益は或は株主配當に、或は役員賞與金に、さては交際費などと稱して處分してしまふのだが、其分配金ばかりは本物でないと通用しないから面倒だ。

物食ひのよい銀行屋
身ぐるめ食つたり食はせたり

不動產と什器、此外に今一つ所有有價証券勘定と云ふ結構な財源のある事を見逃してはならぬ。

此頃なら續々ボロ會社が出るから、其株券でもシコタマ買込むと誠に都合がよい、五拾圓拂込濟でも貳參圓、拾貳圓五拾錢拂込なら貳參拾錢、それ所ではない貳參錢と云ふのはまだしも、現金で貳參圓も付けてやつてもまだ買手のないのすらある。又公債だからと云つて決して額面通りに通用しないから安心は出來ぬ、百圓券で六七

拾圓乃至はそれ以下のものもある。ましてや社債に至つては株券同様、全くお話にならぬのすらあるのだから、こんなのを買入れて券面額、或はいゝ加減な評價で資産勘定へ上げて置いたら飛んでもない利益が生れやう。

それは又故意にやるばかりではない過然にも出來る、新設會社に投資して失敗した場合の如きはそれだ。

本來なら右の様な場合には直ぐに整理すべきだが、そんなボロ株を背負込んだと知れたらそれこそ大變、銀行の信用に大ヒビが入るは必定、臭い物に蓋をする方も大底ではあるまいが、蓋をしてあるのも知らずに居る株主

や預金者こそお氣の毒の至りだ。

「之は預金の利子で、之は配當で……」

何が利子か配當か、蛸なら足だけ食つて心棒するが、惡銀行屋さんは手も胴も果ては頭迄も食つたり食はせたりするからたまつたものでない。

溺れんとする斷末魔
藁ならぬ結構な保護預

もう之だけ食つてしまへば、いゝ加減な所で投げ出してしまつた方がよさゝうだが、仮令投げ出すにしても矢

張り其道でなければ判らぬ投げ出しの時期と云ふのがあつて、さう何時でも心易く投げ出せるものでない。

若し銀行屋にして頭があるならば、整理資金の豊富な時期に投げ出して、徹底的に整理するのが賢明なやり方だが、それにしても事業上の大異變とか財界の大恐慌とか、何か特別の變つたことがない限りさう無闇に投げ出せるものでない。

もう此時分の銀行屋の心裡狀態は、決して只の惡黨ではない、死を待つ重病人か、さもなくば神佛の加護のみを祈つて居る時代だ。

そこでかうなると、一分間でも生き延びて見たいと云ふのが凡夫の常、其果かない人情に引かされて思ひつくのが保護預りの借用だ。

保護預りと云ふのは大底御承知だらうが、株券とか債券とか、又に貴金屬等の如きものを、自分の家に置いたのでは危險があるから大きな金庫を持つて居る安全な銀行へ預つて貰ふ、銀行はお得意先の御便宜を計つて之を保管する、此制度を保護預りと云ふのである。

而も保護預りの目的物は、大底は有價証券で、商人社會では一番融通がつき易い、或は株券のこともあり又債

券のこともある、之等はすべて擔保に供する場合には、引渡によつて効力を生ずるもので、記名債權でない限り誰のものでも間に合ふ上に、外部へ判らずに濟む至極調法なものである、此結構な保護預りがある事を窮した銀行屋は滅多に忘れてゐないのである。

丁度某農工銀行が農工債券を賣出した時の事である、○○○○銀行も其取次をやつてゐたのであるが、自分の手を經て債券を買つた家々へ行員を派して、保護預りの勸誘をやつたものだ、本來なら保護預りは無手數料で、手數こそかゝれ一文の利益もない、だから頼まれて始て

保管するのだが、其勸誘とは前代末聞の珍藝である、こつそり支店長の袖を引いて、「こりや只事でないらしい」と耳打ちした所、支店長「さあどうですか本店のやることだから……」と別に氣にもとめてゐなかつたものだが果せるかな僕の想像は適中した、併しそれは暫くおいて此保護預りをどう使用したか？

明日になつたら又明日の風
投出したいが投出せぬ苦痛

誠に結構な保護預り、こいつを他の銀行へ持つて行けば

トン〳〵で金になる。

「まあ之で一息ついて居れば其中には何とか又考へつくだらう」

丁度學生が友人から借りて來た書物をちつよと質屋へ持込んで、「まゝよ今に返せるだらう」などゝ思つて居るのと心持は同じたが、事志と違ひ、大きな臺所の調子が狂つたのだからさう一月や二月頑張つて見た所でどこからも金が湧いて來る譯があるまい。

預金は減る、經費は嵩む、こうして居る間に期限が來るが金は返せぬ。

そりや始めから返せないのが當り前の事で、もと〳〵皆人樣の褌で角力だ、預金と云ふ態のよい借金の上前をハネるのが銀行商賣、一つゝまづきや取付騒ぎだ、見へ透いたボロ銀行にまともに血の通つてる人間ならさうウカツに金の貸手のないのが當然の當然、不動産擔保が大部分だと云はれた報德銀行ですら一度閉鎖したが最後、自分の手で整理は勿論のこと、援助に一肌脱ぐと云ふ者さへ容易に飛び出さなかつた。財産が消し飛んでゐない云はゞ不動産と云ふ比較的堅實な財産擔保に貸出した固定ですら其通り、況んや三四流所のボロ商人銀行に於お

やだ、大分血の廻りが惡くつてもうつかり手の出し手がないのは此道理だ。

其中に擔保が流れる、よし流れぬ迄も保護預りの返還を追るものが出來てくる、流石の銀行屋も此時ばかりは少なからず青くなつたり赤くなつたりする。

そりや其筈です、これこそあの恐ろしい「背任横領」と云ふ罪が構成して居るのだから……が併し、澤山の保護預りをさう一時に返せと云て來るものではないから、擔保の差し換へで一息しのぐ。

「濟みませんが明日にして下さいませんか、今日はちよ

つと係が居りませんので」係なんかは內部の事務分擔に過きない、之を以て外部に對抗し得るものではない、けれ共德義上之で一旦は引返す、此手で半月や一月は壽命を延ばす事も出來る。

所がさうなると預けて居る方でもそろ〳〵氣がつく、「明日にしてくれつて？預かつた物なら此處にありさうなものだが……ハ、ーン、ひよつとすると？」と云ふ邊迄智惠が廻つて來る、かうなると愈々劍呑至極な話である。

其中には差し換へするにも代擔保がなくなる、取付は

ふへる、かうチクリ〳〵と眞綿で首を締められる位ひな
ら全くの所銀行の方ではどつと一時に取付を喰つて、閉
鎖でもしてしまひたいと云ふのが本當の心持ちだ。
「明になつたら又明の風が吹く、そんな氣持ちで一日一
日と送つてゐました」とは某銀行の最高幹部が取付を喰
つてやうやく閉鎖した時の述懐談だ、以て彼等の苦しみ
通した心事を察知する事が出來るであらう。

利子の付く保護預り
油斷のならぬ慾の皮の指圖

慾の皮の厚い預金者諸君！
と申し上げては甚だ相濟まぬが、兎に角こゝに一つの
問題がある、それは保護預りに利子がつくことである。
「そんな事が出來るのか、よしそれなら俺のにも利子を
つけさせてやらう」なんて氣の早い、慾の皮の厚い連中
があるから引つかゝるのだ、こゝは少し氣を落ち付けて
讀んで貰いたいものだ。
郵便貯金は各府縣市債でも出來ます、供託は公債其他
の債券で通用します、そしてどちらにも利子をつけて返
してくれます。

して見ると銀行の中にそんな事をやるのがあつても別に不思議な事ではない、又實際にある、ボロ銀行はよくやる、それを知つてゐて此証券を預けるから利子をつけてくれなどゝ申込む者がある、そんな場合にボロ銀行は大底預け主の要求に應ずる。

然るに諸君、預けた人の心持ちは保護預だが、法律的に見れば通常の保護預りとは全然性質が違ふ、即ち通常の保護預り、寄託契約では預つた物を其儘保管し、返還する時が來れば其品物を返さねばならぬ、從て民法に云ふ寄託は原則として無償だが、商法上の寄託なら預け主

が保管料を支拂ふのが本當である、それにも拘らず銀行が無料で預るのは、御得意先への御便宜、日常の御ヒーキに對する御添物に過ない、故にこいつに利子がつくと云ふのは少々違はなければならぬ道理だ。

それなら斯る利子付保護預りはどう云ふ性質のものかと云ふに、名前は寄託たが消費寄託、普通の寄託なら預けた物は何時迄たつても自分の所有物だが、消費寄託は本來寄託ではない、云はゞ消費貸借の一種であつて、預けた物は其時から銀行の物になる、銀行では期限が來たら之と同種同等同量のものを返せば、別に預つたもので

なくても差支へない。

郵便貯金や供託が有價証券であつても利子がつくのも理由は皆同一である。

だから之を銀行が自分の物として賣つた所で、又擔保に供した所で横領罪は勿論背任罪にもなるまい、尤も幾等物好きでも、まさか最初から重役を横領罪にしてやらうと思つて預ける人はあるまいが、兎も角預けた物の所有權は完全に銀行に歸屬して、銀行は後に同種同等同量の物を返還する義務を負ふだけのことだから、保護預けだと云ひ乍ら利子を取らうと云ふことは、既に証券に利

子が付いて居る上に、もう一つ銀行の方からも利子を取らうと云ふ算段で、どう見た所で餘り慾の皮の薄いやり方とは見られない。

さて人樣の心持ちなどはどうでもよいとして、こんな狀態が二三ヶ月か半年も續いたら大底の銀行はつぶれるのである。

此外にもまだ財源もあらうし、又不動産の處分についても色々と一時的手段を弄した銀行があるが、それ等は整理銀行の話で、どうにかまともに營業を續けて居る銀行には餘り關係のない事だし、又重大でもないから此問

題は之位の所で切り上げることゝする。

先んずれば人を制す

總會屋利用上の新發明

さてそれではこんなボロになる迄も、賢明なる株主諸君が御存じなかつたと云ふのは一体どう云ふ譯か？

お疑ひになるのは御尤もだが、これ位ひのことに氣がつかぬ重役では、とてもこんな銀行にカジリついて居れるものでない。

例へば○○土地買占事件と云ふやうな事件が突發して

それが世間に騷がれ、銀行と何等かの關係があつたとなると、そんな時には云ふ迄もなく株主總會は大難關である、そこで之が無事通過のカラクリに利用されるのが例の總會屋と云ふ連中である。

此總會屋と云ふのは一定の報酬を出して、所謂少々ウルサイ手合ひを賴んで無闇に發言して貰ひ、他の株主の發言を防害するもので、之を專門にやつて居る者も近頃は少くない樣である、だから何も知らない株主が、うつかり發言でもしやうものなら、飛んだ目に合はされる、いや野次りつぶされてしまふ。

こんな連中を使つて居るのは決してボロ銀行やボロ會社に限らぬし、又必しも新しい方法でもない、殊に銀行と云ふ上品でない癖に上品振つた商賣には、實際は餘り適當ではない。

そこで此方面にも亦新智識が湧いて來て、一見總會屋と看破されない妙案が發見された、然らばそれはどんな方法か、誠に先んずれば人を制すで、機を見るに敏な重役の肚は變通自在の秘法をして、ヤボテン株主などの想像も及ばぬ所、流石は千軍萬馬の勇士、人の褌ばかりで角力を取つても大した遠慮氣兼は勿論の事、使ひ倒して

すら良心が動かうともせぬ程クソ落付いた度胸を持つて居るだけあつて、あつぱれ智者と申し上げても差支へあるまい。

難なく株主總會を欺罔
巧妙な八百長を裏から

それではどんな秘法があるか、曰く「智識階級を利用」することである。

智識階級と云つても、何も博士や大臣の名を借るのでも、又華族の名をかたるのでもない、例へば辯護士とか

會計士と云ふやうな、事業界に相當の信用を持つて居る職業に携つて居る者の中から適材を物色するのである、つまり此方面に精通した融通の利く人物を選ぶのであるが、さりとて餘り名の通つた高等總會屋では、直ぐ看破れる恐れがあるから、其邊は充分注意してかゝらなければならぬやうだ。

さて斯くして適材を物色したら、早速それを大株主に仕立て、株主總會へ送り出すのである。

何分專門教育を終へた風采堂々たる人物で、而も株主名簿には二三百株と云ふ持株が印刷してあるのだから、

誰でもちよつと釣られてしまふ、之が徐ろに立上つて、先づ質問の第一矢を、しかも最も鋭い論調で放ち、重役を散々攻撃した上、巷間に問題となつて居る事件を一々讀み上げて、滿場の株主をアッと云はせ、快哉を叫ばしめる、開口一番

「私は多數の新株を持つて居るものでありますが、……」

と出る、他の株主連は急いで株主名簿を開いて見る。

斯くして巧妙な八百長の幕は切つて落され、プログラムに從て運ばれて、果ては掌中へ入れてまるめられてしまふのである。

之が若し斯る堂々たる風采の人物でなかつたら、そして智識階級でなかつたら大底は氣がつくのだが、一見して他を壓するやうな立派な紳士が、滔々と快辯を振つて重役攻撃に火蓋を切るのだから、固よりそんな八百長の仕組まれて居るとは知らない株主が、不審を抱かないのは無理もない事のなだ。

不思議な不檢擧の裏

告訴しても効を奏せぬ

以上で最近に破綻を見た某々二三の銀行にあつた内幕

を、ほんの大体ではあるが書いて見た、そこで先づ之を總合して、バランスの何處に注目すべきか、更に如何なる銀行經營者であれば信頼が出來るかと云ふ點を、全くの素人にも凡そ知つて貰ふことが出來たゞらうと思ふ。

此外にもまだ貯蓄銀行の預金吸收策等から見て、かなり怪しいのがあるやうに思ふが、今は此點は論じない、從て諸君は之等銀行の勸誘員の口車にウッカリ乘つて、大切な虎の子を消し飛ばされぬやうな要心が必要であらうと思ふ。

ボロ銀行の内幕は一先づ之で打切ることにするが、唯

一つ最後に某銀行破綻事件にからまる不正事件不檢擧の裏面を少しばかり紹介して、諸君の御參考に供して置きたい。

凡そ諸君が之迄に見て來た大銀行破綻事件の裏には、常に犯罪がくつゝいてゐた筈で、銀行の大小を問はず繩付きを一人でも出してゐない所は數少からうと思ふ、本來なら現在の法律を以てしては當然出來る、よし犯意を自覺してゐなかつたにしても、ちよつと油斷すれば背任と云ふ罪名は誰かゞ背負はねばならぬ、それにも拘らず○○○○銀行事件に際しては、一人の罪人も出てゐない

のである、勿論犯罪がなければ出る道理はないが、其實內容は最不良で、背任は云ふに及ばず、帳簿に不實の記載をなし又はなさしめて債權者を害し、他人から保管を託された財物を横領して擔保に供し、其他實に沙汰の限りを盡して居たのである。

從て銀行の周圍は怨嗟の聲に充ち滿ち、或は告訴を提起し、中には密告を試みたものもあつたに拘らず、遂に檢擧を見るに至らなかつたのである。

何故○○○○銀行は之程內容が惡く、其上周圍から怨嗟の聲に包まれてゐ乍ら捜査機關が一指も染のやうとし

なかつたか？

所謂高等政策の秘術

裏面の働く隼のやうな男

それには實に所謂高等政策と稱する網が機敏に張られてあつたからだ。

時は大正十一年の秋、京都の日本商工銀行を筆頭に、日本積善、報德、大阪等大小の銀行が相次で倒產した、其大小の銀行の中でも、〇〇〇〇銀行は內容が一番惡かつた、而して或時は公金を取扱つてゐた事もあり、又或

時は兎に角土着の銀行として認められて居た。

然るに其銀行が閉鎖した當時は、既に重役は頭取一人を殘して全部辭任してしまつてゐたが、時恰も財界の不況日に加はりつゝあたつので、之が整理には非常な困難を感じて居たのである。

丁度此銀行の整理に當つたのが、京大出身の二辯護士で、日夜寢食を忘れて謀議を凝らしてゐたが、こゝに忘れることの出來ないのは無名の一策士が黑幕として働いて居つた事である、其人は當時頭取を助げ、辯護士のひるみ勝ちな態度に鞭打つて、汎有劃策に苦心を回らして

ゐたのである。

其頃幹部は西に東に、或は檢事局に警察署に、時には政黨方面に又銀行家に、更に監督官廳の間を迄かけずり廻つて其諒解を求め、一方には預金者の强行な談判や暴力團の强迫、それに續いて差押や預金拂戻の訴訟、破産宣告の申立と云つた風に、矢つぎ早に銀行攻擊の手順は選ばれて、全く一分間の隙もあらばこそと云ふ態たらくで、誰も彼もほと〳〵疲れ果てゝゐたのである。從てそれだけ限りある彼等の能力では防ぎ得ない危險が多く迫つてゐた事は勿論である。

電光の如く閃いたもの
司法官でも木石でないさ

所が此大混雜の最中にも、彼の無名の一策士の頭に電光の如く閃いたものがあつた、それは云ふ迄もなく搜査機關の檢擧の手であつた。

併し彼の頭はより鋭かつた、そして頗る緻密に働いてゐた、其一例は此銀行が閉鎖した時に、早くも多數の電話が一本も殘らず他人名義に變更されてゐた事實でも判る、即ち電話を差押へられては本支店間の連絡と、之に

依て將來得られる金融の途（電話擔保の借金）を塞がれる、だから之を他人名義に變更して置く必要があると云ふのであつた。

そんな細い點に迄氣のついた彼は又一方之と共に、若しも自分の銀行に裁判所關係者の預金がありはしないかと云ふことに先づ感付いたのである。

司法官と雖も木石ではない、若しそれ檢擧の手が一朝にして下らんか、整理の上に一頓挫を來すのは必定たがらである、果せるかな某司法官の預金が本店の帳簿に發見されたのである。

そこで何をおいても之を辯濟することは、最善の策であると思つた彼は、窃かに顧問辯護士と謀つて、之を其私邸に訪はしめて返還してしまつた、それは閉鎖直後の大混雜中の出來事であつたのである。

日ならずして告訴、密告は搜査機關のもとになされた勿論銀行側にしては豫期してゐた所である、所が不思議にも一向檢擧の手は下らうともしなかつた、それのみか却つて銀行に有利な和解が其方面の刺戟によつて漸次成立して行つた。

司法機關は固より犯罪を作ることを目的にしない、併

し一旦發生した犯罪に對しては、飽く迄公平に法規を適用し、嚴正に執行して其維持に力める義務があつたであらうものを……

株主と預金者を掌中に丸め
鮮かに退却した覆面の策士

犯罪――背任、横領――不法行爲、商法違反、これは誰の目から見ても、いや實際に多くの横領があつたのは確かなのに、幸な不幸か檢舉の手は遂に下らなかつた、無名の策士の不思議な働？として僕は今も眺めて居る。

而も此彼の大きな働きも、惡黨の常套手段である賄賂の如き下手な方法を選ばなかつた所にも、彼一流の手腕を窺知することが出來た。

大藏省の檢査官をして、彼が閉鎖防止の苦肉の策に一驚を喫せめのも强ち無理ではない。

併し結果は矢張り銀行に對する一忠僕であつたに過ぎない、其爲めに一般預金者や株主の損害はどれだけ大きいか、今日に至る迄其整理が完成されずして、多くの預金者を泣かしなて居るのは、全く彼の余りに鋭敏な頭の働きがあつた爲である。

實際若し當時彼が居なかつたら、必ずあの銀行は破産になつてゐたに違ひない、そして其結果は今日の經費を節減し、より早く、より多くの拂戻しを受け得た筈である、鋭敏な頭の持主である彼だ、固より此銀行の整理不能を知らぬ道理はなかつた、唯一つ彼の希ふ所は犯罪者を出したくないと云ふ點で、それにはどうしても一時破産を免れて、預金者や株主の報復的に反感の消へるを待つて任意解散をやらうと云ふ計劃があつたからである、而も彼の計劃は見事に圖に當つて、預金者や株主は遂に今日の悲慘な結果に導かれたものと言ふ事が出來る。

斯くて彼は事件の一段落を機に鮮かに退却してしまつたのである。(完)

大正十五年九月廿七日印刷
大正十五年十月一日發行

ボロ銀行の內幕

定價金五拾錢

著作印刷兼發行人　小西政治郎

滋賀縣犬上郡彥根町字四番第二十二番地
印刷所　湖東民報社印刷部

滋賀縣犬上郡彥根町字四番第二十二番地
發行所　湖東民報社

滋賀縣阪田郡長濱町
發行所　滋賀民報社

著者印

阪田郡南郷里村

日本ビロード株式會社

阪田郡北郷里村石田

近江ヴエルベット株式會社

八幡商業學校々長

高橋福三

高宮町長

郡田政治郎

西川吳服店

犬上郡高宮町

瓦製造商
尾上音次郎
滋賀縣八幡町宮內
電話二六一番

木村繁樹
阪田郡北鄉里村

滋賀縣八幡高等女學校
職員一同

滋賀縣八幡町
八幡組合銀行一同

近江八幡製瓦組合

耳鼻咽喉科專門
樋口醫院
彥根町四番
電話一六三番

內科小兒科
依光醫院
彥根江戸町學校前
電話五四七番

產婦人科
林醫院
彥根三番町
電話二五六番

齒科專門
岩松醫院
彥根一番町

中島醫院
彥根町外馬場
電話一三九番

河村醫院
彥根町一番
電話七四番

草塲醫院
東淺井郡虎姬

堤政次郎
高宮町

前川惣次
彥根上藪下

西村常次郎
彦根町字彦根

笹原泉
滋賀縣長濱町

近江帆布株式會社
滋賀縣八幡町
電話長四六番

武山旅館
彦根町字彦根
電話四四六番

御料理仕出し
千鳥園
彦根大橋町

ふとまるゑ飴煮製造所
彦根第一公設市場
電話四六六番

ヱンバイヤ號
パリー號
ロイド號
ナゴヤ號

濱屋自轉車商店
八木瀧次郎
犬上郡多賀

會席御料理仕出し。海川魚
濱家
立花家
八木由太郎
犬上郡多賀

西田庄助
犬上郡千本村

西川甚五郎
蒲生郡八幡町

寫眞
撮影、器械、原料、現像、燒付
貫名精美舘
彦根二番町

シブヤ寫眞舘
彦根登リ町

金玉堂寫眞舘
滋賀縣長濱町
電話四一七番

辻捨
彦根町
第一公設市場通

親玉饅頭店
彦根町
第一公設市場通

橋本精肉店
彦根町
第一公設市場通

文房具
イビー商行
彦根四番町

耳鼻咽喉科
專門
椿居堂醫院
彦根町上魚屋町

樂々園
北城根彦
電話壹〇五番

玄宮園
北城根彦
電話壹壹八番

549
136

終